

田富小だより

令和3年度
第8号
11月29日
田富小学校



秋の深まり、学習の深まり

1年生は、生活科の学習の一環として金川の森に行き、木の実などを拾い集めてきました。みんなたくさん持ち帰ってきてとても満足そうでした。秋の自然を学ぶことはもちろんですが、持ち帰った木の実をうまく使っているような道具を作り、お祭りを計画しました。どんぐりにひもを付けて、一方の端を紙コップに繋げると、こ



れが立派なけん玉になっていました。こういった工夫をたくさんしながらお店屋さんを開き、みんなで楽しもうというものです。子ども達の生き生きとした表情がとても印象的でした。子ども達はたくさんの店を出店し、最終的には楽しいお祭りを行うことができました。とても思い出深い学習ができたと思います。余談ですが、子ども達はどんぐりの中から出てくるゾウムシの仲間の幼虫にたいへん興味をもったようです。ちょっと見ると気持ち悪いと思う人もいそうですが、「かわいい」と言って大切に扱う姿に子どもらしい優しさを感じました。

2年生は県立科学館に行ってきました。常備施設を使っでの学習は勿論ですが、参加型のイベントとしてスライムを作るなど、楽しい時間を過ごしました。皆さんもご存知の通り、科学館は楽しく遊べるものがいっぱいありますが、そのひとつひとつに科学の意味が込められています。遊びの中から様々なことを学び、大いに興味をもってこれからの学習に活かして行ってほしいと思います。ちなみに、右の写真は巨大シャボン玉を作っているところです。すぐに割れてしまわないようにシャボン玉液などに工夫されているんですね。是非、お家でも科学の楽しさを味わってあげさせてください。



3年生は、消防署や警察署など人々の暮らしを守る仕事、社会のことについて学んでいます。昨年は感染症の影響で見学もままならない状況でしたが、今年度は感染対策をしながら、各施設も見学を受け入れていただくことができました。事件や事故から人々を守る仕事を見学して、社会には様々な仕事をする人達があり、そのおかげで安心して暮らしていけることを学べたと思います。そんな3年生ですが、今号では、全校を代表して「手作り弁当」の写真を載せました。昨年度は校内研究でも食について学習をしてきました。昨今の子供達に見られる特徴として、食材をよく知らない、旬の食べ物も知ら

ない…などがあります。焼き魚も鮭しかわからない(切り身の色が違うから)子も他の学校にはいました。自ら食するものに関心を持ち、あわせて自分の健康を考え、楽しく、充実した食生活を送っていくことはこれからの子ども達にはなくてはならないものです。今回のお弁当作りも一人で全部作った子もいれば、盛り付けをした子、1品調理した子、買い物と一緒にいって食材を選んだ子などさまざまですが、自分が口にする一食に前向きに取り組めたことに間違いはないと思います。これからも、児童の必須課題に積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に4年生。総合的な学習では福祉のことを中心に学習をすすめています。視覚障害の方や聴覚障害の方を学校にお招きして、いろいろな話を聞く機会を持ち、様々な人たちがいる社会でどんなふうに生活していくべきかを考えることができました。そんな折、直接的には福祉と関わりあひはありませんが、幸運なことに燃料電池バス「SORA」に乗る機会に恵まれました。地球に対する福祉としては大きな問題であるCO²の排出について考えるいい機会です。水素燃料で走るバスへの試乗や山梨大学の先生による講義など、短い時間でしたが有意義な時間を過ごすことができました。人にも自然にも優しくありたいと思つてくれたと考えています。リニア未来創造局をはじめ関係機関の方々に感謝申し上げます。



全国学力・学習状況調査結果より

結果が公表されてから時がたってしまいましたが、令和3年度の全国学力・学習状況調査に関する本校の様子をお伝えいたします。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施されませんでした。今年度は2年ぶりに実施されました。教科は国語・算数の2教科です。

国語、算数とも全国や県の平均をやや下回る結果です。国語については、思考・判断・表現などの分類の中の「C読むこと」については、全国や県の平均をやや上回る結果になっています。「漢字の読み書き」と「文章の主述」に関する事項で正答率が低い結果となりました。漢字の読み書きなどの基本的な知識などは、家庭学習における繰り返しの練習が不可欠となります。本校の自学ノート「やってみるじゃん」への取組をさらに推し進めたいと考えます。

算数では、「データの活用」に関する部分では、平均は全国や県とほぼ同等の結果でしたが、「測定・変化と関係」の項での正答率がやや低い結果でした。この項目の問題は、6ページにわたって出題された、「速さ」をメイン題材に構成されています。出題された情報の中から、必要な数値を選び、どのように解決していくのかといった一連の思考が必要とされるものです。児童が主体的に課題に取り組み、他の児童と学び合う中で、さらに深い思考を身に着けられるように、授業を中心にさらに取り組んでいくことで改善していきたいと考えています。

児童の生活に関わる質問の項については、■家庭での情報端末やゲーム機の使用 ■家庭での学習時間 ■読書量などの項目で全国などと比べ、マイナスのポイントが目立ちました。3つの項目については、微妙に関係しあっていることも予想できます。ゲーム機やスマホの利用については、本年度もPTA活動と共同歩調で適正利用ができるよう取り組んできているところです。これからも継続して取り組んでいきたいと考えています。

最後に、本校児童も含めた中央市の小学生のことをお知らせします。「人が困っているときは進んで助けている」は、全国平均を13.7ポイント上回っています。また、「人の役に立つ人間になりたい」では、全国平均を3.9ポイント上回っています。また、「自分にはよいところがあると思う」や「将来の夢や目標を持っている」といったところでも4~7ポイント全国を上回るなど、自己肯定感の高さや心の豊かさが際立つ結果となっているのがうれしかったです。市の教育方針である「まごころ」を大切にしたい考えをこれからも実践していきたいと思ふ次第です。